

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月12日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520110

研究課題名（和文）『集神州三宝感通録』の美術史料論的研究

研究課題名（英文）A Study on Ji-shenzhou-sanbao-gantong-lu 集神州三宝感通録 from Art Historical Perspective.

研究代表者

肥田 路美（HIDA ROMI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：00318718

研究成果の概要（和文）：3年間で唐道宣の著作『集神州三宝感通録』のうち仏塔・仏舎利の靈験を扱った巻上について現代語訳と詳細な注釈をほぼ完成させた。注釈は特に美術史の観点からおこない、付注項目は総計440にのぼった。また、抽出した問題点を更に追究した研究ノート計15編を得た。これらの成果は毎年度末に同人誌『奈良美術研究』誌上で公開し、総分量はA4版462頁に達した。これは、仏教初伝から初唐に至る間の舎利信仰史の基礎的研究でもある。

研究成果の概要（英文）：During the three years as the recipient of the Grants-in-Aid for Scientific Research, the recipient completed a modern-Japanese translation with thorough notes for most of the first volume of *Ji shenzhou sanbao gantong lu*, written by the Tang dynasty monk, Daoxuan. The topics of the notes, the total of which reached 440 entries, were selected especially with view to explore Art Historical issues. In addition, some of the topics were elaborated into 15 individual studies. The results have been published annually in *NARA BIJUTSU – Journal of Nara Art Studies*, and accumulated to the total of 462 A4 size pages. The project is also a fundamental research on the history of śarī worshipping in China, from the introduction of Buddhism to Early Tang.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野： 中国仏教美術史

科研費の分科・細目： 哲学・美学美術史

キーワード：道宣、隋唐時代、六朝時代、靈驗、仏塔、舍利、阿育王、仁寿舍利塔、

1. 研究開始当初の背景

南山律師道宣の晩年の著作である『集神州三宝感通録』は、中国へ仏教が伝来した後漢時代から道宣が生きた初唐に至る約600年の間に、仏塔・仏舍利、仏像、寺院、経巻など具体的な造形物の上に現われた種々の靈異・靈驗譚を集録したもので、仏教美術の研究には欠かせない文献である。しかしながら、従来は部分的に参照、引用されるにとどまり、誤訳の多い『国訳一切経』護教部所収本を除くと訳注もなされたことがなかった。代表者は科研課題の開始前年から巻上の訳注に着手し、一見虚誕な伝奇的記事に対する美術史資料としての読解の可能性に手応えを得て、本研究を企画した。

2. 研究の目的

『集神州三宝感通録』を国内外で初めて現代語訳するとともに、特に造形に関わる問題を細かく拾い上げてでき得る限り深い注解を試みることを目的とした。すなわち、律の学匠であり屈指の仏教史家である道宣のこの靈驗説話集の史料的性格を踏まえて読むことで、これが美術史の資料としてどれほどに役立てることができるかを示すことを試みたものである。また同時に、これらの記事を採録叙述した道宣の意図について、前時代の南朝に対する位置付けや評価を軸に考察した。

3. 研究の方法

『大正新脩大藏經』巻52所収テキストを底本とし、大藏經諸本、『続高僧伝』『廣弘明集』など道宣自身の著作や法弟道世の『法苑珠林』等を参考に文字を校勘し、現代語訳する。注解は造形に関する事象は細大漏らさずこれを拾い、原則的に初出の固有名詞もすべてを対象とした。特に美術史の観点から内容の拡大的解説を施した。また、該当箇所から抽出した美術史的課題について考察を深め、「研究ノート」としてまとめた。これらの成果は小まめに公開することで広く意見を聴取し随時改訂を加えるべく、毎年度末に同人誌『奈良美術研究』に「美術史料として読む『集神州三宝感通録』一積読と研究一」と題して掲載し、国内外の関連分野の研究者・研究機関に配布した。なお、研究協力者として3年間で21名の大学院生の協力を得た。

4. 研究成果

『集神州三宝感通録』巻上の内容構成は、阿育王塔篇、舍利感通篇、仁寿舍利塔篇からなる。3年間で巻上の冒頭から仁寿舍利塔篇の前半まで（『大正新脩大藏經』巻52、404頁a～411頁c）の訳注を完成させた。付注項目は総計440にのぼった。そのうちの主立った事項を挙げると、仏骨と舍利との語義の相違、舍利容器の入れ子形式、救苦寺大像、扶風法門寺塔、三十年一開（舎利の開帳の時期・作法・意義について）、燃指供養、行道、塔内の像安置、舎利の放つ光明、法門寺舎利の形状、仏頂骨の献上、地獄の情景、廊廡、白馬寺、福感寺、心礎に舎利を安置する例、博山、四神、十二神王、神仏の姿を画き写して彫像を作ること、塔を守護する龍、鄭州超化寺、塔の立地、床、塔基の構造、細腰、崑崙、懷州の妙楽寺、并州の浄明寺、楡社の塔、誌公、高麗と高句麗の名称、土塔、高句麗の木塔、儀相、日本の阿育王塔、益州の空慧寺、七仏龕、玉華宮寺、一層磚塔、起塔の理由、護塔善神、塔側の古窠、大興国寺、相州の大慈寺、太子思惟像、釈迦の牙齒、髮爪、目精、衣鉢瓶杖、坐処、漢法本内伝、踊身高飛、周閭百間、騰光上踊作大蓮華、如來の金剛骨、蕢獲、齋食と舎利の感得、八閼齋、神尼智仙、仁寿宮、神尼像などがある。また、抽出した問題点を更に追究した研究ノート計15編を得た。題目、執筆者（研究協力者）は次のとおり。

「アショーカ王施土説話の受容と造像の背景」大島幸代、
「劉薩訶伝と劉薩訶信仰について」村上佳濃、
「吳越国における鄞県阿育王塔信仰の諸相」小野英二、
「鄞県阿育王塔の形状に関する基礎的考察」大島幸代、
「中国初期仏塔における露盤の存在意義について」友田真理、
「『感通録』に見える中国の阿育王塔と舎利の関係」清水紀枝、
「唐代における仏足跡信仰の形態」徳泉さち、
「『宝篋印経記』にみる日本の阿育王塔信仰受容の一断面」小野英二、
「唐代における柏木の樹種と用途について」神野祐太、
「仏舎利の由緒について一主に中国隋唐代の史料から一」大島幸代、
「後白河院政期における「阿育王塔」の制作について」清水紀枝、
「護塔神について」大島幸代、

「北周の尉遲迥と奉仏一拉梢寺摩崖大仏を主として」稲葉秀朗、

「唐高宗期扶風法門寺阿育王塔にみる仏塔と仏像の関係」小野英二、

「隋仁寿舍利塔研究序説」大島幸代・萬納恵介。

以上の成果は毎年度順次誌上で公開し(下の発表論文等の項参照)、3年間で合計462頁に及んだ。なお、訳注は巻中、巻下まで継続的におこない、本資料全体に関する諸問題については別途論じていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

1. 肥田路美 (編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』—釈読と研究—(五)」、奈良美術研究12号、2-113頁、2012年、査読無

2. 肥田路美、「仏舎利の荘嚴具と迦陵頻伽盆」、『円仁と石刻の史料学』高志書院、217-236頁、2011年、査読無

3. 肥田路美 (編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』—釈読と研究—(四)」、奈良美術研究11号、1-43頁、2011年、査読無

4. 肥田路美「中国の靈驗像の性格と造形」、美術フォーラム21、22号、41-45頁、2010年、査読無

5. 肥田路美「奉先寺洞大仏和白司馬坂大仏」、石窟寺研究1号、130-136頁、2010年、査読無

6. 肥田路美 (編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』—釈読と研究—(三)」、奈良美術研究9号、73-147頁、2010年、査読無

7. 肥田路美、「隋・唐前期の一州一寺制と造像」、早稲田大学大学院文学研究科紀要55輯第3分冊、65-80頁、2009年、査読無

8. 肥田路美 (編著)「美術史料として読む『集神州三宝感通録』—釈読と研究—(二)」、奈良美術研究8号、134-186頁、2009年、査読無

[学会発表] (計4件)

1. 肥田路美「舎利信仰と舎利塔・荘嚴具—法王寺を中心に—」、シンポジウム「円仁石刻と古代の日中文化交流」國學院大學、2011年1月23日

2. 肥田路美「南北朝時代乃至唐代の瑞像の造形的特徴と意義」、慶賀饒宗頤先生95華誕敦煌学国際学術研討会、中国甘肅省敦煌、2010年8月2日

3. 肥田路美「梓潼臥龍山千仏岩阿弥陀仏五十菩薩像考」、重慶大足石刻国際学術研討会、中国重慶市、2009年10月31日

4. 肥田路美「玄奘三蔵帯回的仏像在中土の意義」、甘肅省博物館建立70周年絲綢之路文化国際学術研討会、中国甘肅省蘭州、2009年8月3日

[図書] (計1件)

1. 肥田路美『初唐仏教美術の研究』中央公論美術出版、全502頁、2011年

6. 研究組織

(1)研究代表者

肥田 路美 (HIDA, ROMI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：00318718

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

大島 幸代 (OHSHIMA, SACHIYO)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

小野 英二 (ONO, EIJI)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

友田 真理 (TOMODA, MARI)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

清水 紀枝 (SHIMIZU, NORIE)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

徳泉 さち (TOKUIZUMI, SACHI)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

羅 翠恂 (RA, SUIJYUN)
早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程

村上 佳濃 (MURAKAMI, YOSHINO)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

金 志虎 (KIM, JIHO)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

庚 地 (KOU, CHI)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

住 綾乃 (SUMI, AYANO)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

内藤 ちひろ (NAITOU, CHIHIRO)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

山口 卓也 (YAMAGUCHI, TAKUYA)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

神野 祐太 (JINNO, YUTA)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

竹田 滋子 (TAKEDA, SHIGEKO)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

稲葉 秀朗 (INABA, HIDEAKI)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

牟 文華 (MU, BUNKA)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

萬納 恵介 (MANNOU, KEISUKE)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

柿田 由羽 (KAKITA, YUU)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

石渡 樹里 (ISHIWATA, JYURI)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

王 小雄 (OU, SHOUYUU)
早稲田大学大学院文学研究科修士課程

呉 爽 (GO, SOU)
早稲田大学大学院文学研究科研究生